

2022年度第2四半期決算説明会
主な質疑応答

●オフィス・ホームプリンティング

Q: インクジェットプリンターの最終需要について、第2四半期の状況、今後の見通しを教えてください。

A: 新型コロナウイルス発生以降、従来のオフィス印刷が家庭や SOHO などに分散しており、大容量インクタンクモデルのインクは、家庭やビジネス用途など多様な印刷需要を捉え伸長している。一方で、インクカートリッジは、在宅印刷需要のピークアウトに伴う影響を受けている。

エプソンは今後も、新興国だけでなく先進国でも、家庭やビジネスなど、さまざまな印刷需要に応えられる大容量インクタンクモデルの販売を伸長させていく。

Q: チャンネル在庫の状況、供給制約の解消時期について教えてください。

A: 半導体の調達難による供給制約により、上期はチャンネルの需要に対して十分に商品を提供できず、チャンネル在庫の水準は依然として低い。下期には供給制約の改善を見込んでおり、今年度内にチャンネル在庫の適正化を進めていく。

●商業・産業プリンティング

Q: 完成品ビジネスに織り込んだ、下期のリスク要因を教えてください。

A: 供給制約の継続リスクや中国の景気減速リスクを織り込んでいる。

Q: プリントヘッド外販ビジネスの今後に向けての考え方を教えてください。

A: 短期的には景気減速リスクなども考慮する必要があるが、プリントヘッドは応用範囲も広いため、中期的には伸びしろも大きいビジネスであると考えている。

●ビジュアルコミュニケーション

Q: 下期計画では、上期に比べ利益水準が落ちるのはなぜか。

A: 上期は、供給制約の改善や価格対応、欧米での教育関連の需要が好調だったことなどから、利益率が改善した。一方で、下期はモデルミックスの変化や費用増加など鑑み、慎重な計画としている。成熟領域であるビジュアルコミュニケーション事業は、構造改革が進んでおり、収益性も改善し筋肉質な事業体質となってきた。

●マニファクチャリング関連・ウェアラブル

Q: マイクロデバイスの第2四半期の販売状況と今後の予想を教えてください。

A: スマートフォンや PC 向けの販売は、ピークからは減少してきている。一方で、車載、基地局・ネットワーク向けなど、多様な産業で依然として高い需要が継続している。

下期以降は、スマートフォン向けなどの需要減が想定されるものの、エプソンは、継続的に拡大が期待される IoT 機器、車載、基地局・ネットワーク、産業機器など、幅広い用途向けに展開できているので、極端に収益性が悪化することなく、安定的な事業運営が可能だと考えている。